

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革
—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

自己評価委員会 平成27年度報告書

委員名簿

事業実施責任者：窪木拓男（岡山大学歯学部長）

内部評価委員：大原 直也（副学部長 総務担当）

森田 学（副学部長 教務委員長）

飯田 征二（岡山大学病院・歯科系代表副病院長）

宮脇 卓也（岡山大学病院・副病院長 臨床実習実施委員長）

浅海 淳一（副研究科長 総務担当）

鳥井 康弘（卒後研修センター・歯科部門長）

江草 正彦（スペシャルニーズ歯科センター長）

曾我 賢彦（医療支援歯科治療部副部長）

I. 事業の概要・目的

実績のある国立大学歯学部と医学部を擁する私立大学歯学部、特色ある医学部歯科口腔外科が協力して、各大学の医療系学部の協力のもと、縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療学を構築、それを全国レベルで均てん化する。加えて、東京大学 死生学・応用倫理センター、高齢社会総合研究機構の協力のもと死生学や地域包括ケアに関する教育を導入する。また、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センターの協力を得て、認知症等に対する最新の知識と歯科的対応を系統立てて学べる様にする。その結果、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。また、口腔から全身健康に寄与でき、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場に対応できる歯科医を育てる。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

II. 本事業終了後の達成目標（申請時）

口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄

養サポートチーム (NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

そのために以下の具体的方策を掲げた。

1. 申請大学と連携大学や協力組織をまとめた歯学教育改革コンソーシアムを設立し、教員FD、学生交流、相互チェック体制を整え、歯学教育改革の高度化と均てん化を図る。
2. 岡山大学、連携大学、協力組織が協力して、以下の医療支援歯学教育コースワークを順次開始、連携大学の教員FDや学生交流に解放、提供する。
 - ①生活習慣病予防と歯科、急性期歯科医療、在宅介護歯科医療に関する講義シリーズ
 - ②要介護高齢者を模したシミュレーター演習や老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習
 - ③大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
 - ④臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
3. 各連携大学に、特徴ある有病者・高齢者・在宅介護・災害対応に関する医療支援歯学教育プログラムを設置、相互利用を行う。
4. 各連携大学の学部教育に、同様な医療支援歯学教育コースワークを組み入れる努力をする。
5. 各連携大学の卒後臨床研修制度に、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場をサポートする多職種連携医療に対応したコースワークを設置する。
6. 一部の連携大学の大学院に、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した疫学研究の推進を可能とする大学院組織を作る。

Ⅲ. 平成27年度の達成目標とそれに対する実績・具体的な成果

事業経費交付申請時に文部科学省に工程表として提出した平成27年度の達成目標と、それに対する実績・具体的な成果を以下に示す。

1. インプット・プロセス
 - 1) 定量的なもの

①医療支援歯学教育コースワークの授業シリーズの閲覧試行開始（60分×15＝1単位）

医療支援歯学教育コースワークの授業シリーズは、収録平成27年1月までにコンテンツの収録を完了し、閲覧試行は岡山大学歯学部4年次学生を対象に行った。インターネット接続の不具合はなく、全員が授業シリーズの視聴可能であり、来年度のe-learningでの学習が滞りなく行えることを確認した。

②シミュレーターや老人介護施設を用いたPBLを公開（岡山大学）、シミュレーターの準備開始（6校×1台）

平成27年6月10日より、岡山大学歯学部4年次生の第2クォーターを利用して、4年次学生全員と指導教員が老人介護施設に訪問し、学生に介護現場の課題を抽出させ、PBL演習を行った。尚、本演習は連携大学向けに公開し、教員および学生の参加募集を行ったところ、鹿児島大学から2名の教員の参加があり、介護施設へ同行した。演習後は、指導方法等について教員間で活発な議論が交わされ、今後も相互に連携していくこととなった。

シミュレーターは、大阪大学、鹿児島大学および岩手医科大学へ配備を行った。

③連携大学に授業コンテンツ作成システムを整備（5校×1台）

授業コンテンツ作成システムは、北海道大学、九州大学および昭和大学に配備し、それぞれの大学にて授業コンテンツの収録が開始されている。

2) 定性的なもの

①サーバー整備とコンテンツ視聴システムの機能向上

講義電子コンテンツやホームページを格納し、連携大学等の学生や教員が閲覧できるようにサーバーを増強・整備した。コンテンツ視聴システムは、学生権限・教員権限・学務権限・プロジェクト管理者権限でそれぞれアクセスできるように機能強化を図った。また、視聴画面、視聴時間の記録表示、テスト機能、成績管理機能などの向上、改善を進め、来年度からの視聴システム利用に備えた。

②がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催、事業推進委員会（ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ）

平成27年8月29、30日に岡山大学にて、「医療支援歯学教育コースワーク

(講義シリーズ) 第2回歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際」と題して、公開講座を開催した。周術期医療・がん支持療法の分野でのエキスパート(医師、歯科医師、看護師等)を招聘し、講演を行っていただき、臨床現場における各職種間の連携等について活発な意見交換もなされた。本講演会の参加者は164人であった。

また、第3回事業推進委員会を平成27年10月23日に昭和大学にて開催し、平成26年度の自己評価および外部評価の結果や各連携大学での事業進捗状況等の報告がなされた。また、本委員会にて、ウェブコンテンツ作成の委託会社である(株)インサイドフィールドの中野田紳一氏より、ウェブコンテンツ作成の進捗状況および視聴方法等の説明がなされ、平成28年度からの授業コンテンツ視聴開始までにブラッシュアップを行う旨の説明があった。

③連携校間や協力施設への教員FD継続，学生交流開始

岡山大学にて開催した医療支援歯学教育コースワーク第1回から第3回の公開講座の際には、連携大学教員FD意見交換会を行い、各公開講座のテーマについて、各連携大学での教育の実施状況や今後の連携大学間での教育プログラムの共有等についての意見交換がなされた。

また、平成27年8月3～7日、9月7～11日に長崎大学にて開催された「離島歯科保健医療サマースクール 包括的口腔ケア・ラーニングコース」に昭和大学から1名、岡山大学から5名、九州大学から1名の参加があった。

また、平成27年8月17～21日、8月31日～9月4日に鹿児島大学にて開催された「平成27年度 夏季全国歯学生離島実習プログラム」には、岡山大学から3名、九州大学から2名の参加があった。

離島医療の実状を目にし、現場で働く医療・介護関係者や島の人々との交流や大学間で学生交流のできた大変有意義な実習となった。

④教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査，基盤研究実施

大阪大学では、都市部と農村部において健康長寿についてのコホート研究を行っており、大学院生および臨床研修医が参加した。

⑤各連携大学の特徴あるプログラムの試行，実施，公開

北海道大学では「がん治療の周術期管理セミナー」、金沢大学では「がんプロフェッショナル医養成プラン(がんプロ)」,九州大学では「口腔健康科学特論」を行い,それぞれ収録を行っており,来年度以降は本事業のオープンコースウェア(<https://mdp.dent.okayama-u.ac.jp/ocw/index.php>)にて,連携大学間で共有,視聴できるよう準備を完了した。

大阪大学では,「異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習」,「指導的歯科医療人養成コース」の実習を行った。

また,長崎大学では「離島歯科保健医療サマースクール 包括的口腔ケア・ラーニングコース」が,鹿児島大学では「平成27年度 夏季全国歯学生離島実習プログラム」が連携大学の学生を対象に公開され,連携大学からの参加があった。

⑥昭和大学歯学部で定例歯学教育研究シンポジウム&ワークショップ開催,大学院生の基盤研究や疫学研究の発表の機会を設ける

平成27年10月22,23日に昭和大学上条講堂にて,平成27年度連携シンポジウムを開催した。協力施設および連携大学から講師を招聘し,両日とも活発な意見交換が行われ,盛会裏に終了した。本シンポジウムの参加者は216名であった。

2. アウトプット

1) 定量的なもの

①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習試行(岡山大学:53名)(連携校:15名)

岡山大学歯学部において,21名の学外臨床講師の協力のもと,6年次学生(54名,全臨床実習生)を対象として,在宅介護・訪問診療参加型学外実習を実施した。尚,連携校からの学生の受け入れについては,来年度の実現を目指し,臨床講師との連携をより密にし,体制を整えていく予定である。

②老人介護施設を用いたPBL演習試行(岡山大学:53名)(連携校:10名)

岡山大学歯学部4年次生の第2クオーターを利用して,4年次学生(46名)と指導教員が老人介護施設に訪問し,学生に介護現場の課題を抽出させ,PBL演習を行った。尚,連携校からの学生の受け入れについては,今年度は出来ていないが,来年度以降の実現に向けて,鹿児島大学から2名の教員による視察の受

け入れを行い、学生の介護施設訪問へ同行した。

③高度医療支援・周術期口腔機能管理臨床実習試行（岡山大学：53名）（連携校：15名）

岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習を実施した。平成27年度は、岡山大学では臨床実習生（5年次後期～6年次前期）を対象として、55名が実習を行った。

④シミュレーター演習試行（岡山大学：53名）（連携校：15名）

要介護高齢者を模したシミュレーターを用いて実習を行った。岡山大学では臨床実習生（5年次学生）を対象として、56名中41名が実習を行っており、今後も継続して行う予定である。患者さんの体位や術者の位置決め等について、状況に応じた治療ができるようシミュレーションを行っている。

2) 定性的なもの

①閲覧可能な授業シリーズの蓄積

岡山大学にて医療支援歯学教育コースワーク第1回から第4回の公開講座を開催し、授業シリーズのコンテンツ収録を行った。講義シリーズ（生活習慣病と口腔、急性期医療および在宅介護医療）を1シリーズあたり60分×15回分蓄積した。来年度は本コンテンツのブラッシュアップを行い、内容をより充実していく予定である。尚、岡山大学では4月より、e-learningでの学習を開始する予定である。

②連携校間や協力施設へのFD教員派遣，学生交流

前述のように、岡山大学にて開催した医療支援歯学教育コースワーク第1回から第3回の公開講座の際には、連携大学教員FD意見交換会を行った。

長崎大学および鹿児島大学にて開催された離島実習には、連携大学から学生が参加しており、学生交流を開始した。

③疫学研究業績，基盤研究業績

大阪大学では、都市部と農村部において健康長寿についてのコホート研究を行っており、大学院生および臨床研修医が参加した。

④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加

長崎大学および鹿児島大学にて開催された離島実習には、連携大学から学生が参加した。

3. 各大学における教育プログラムの進捗状況

【北海道大学】がん治療の周術期における口腔管理研修コース

がん治療の周術期管理に関するセミナー（90分×7回）、がん化学療法前の口腔管理演習（120分）、がん治療周術期の口腔管理研修の3つの研修を歯科研修医を対象に行い、8名が受講した。

【金沢大学】がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース、がん治療支援口腔機能管理卒業臨床研修コース、がん治療支援口腔機能管理コース

金沢大学がんプロフェッショナル医養成プラン（がんプロ）のコンテンツを本事業へと移行するための作業を開始した。具体的な作業内容は、コンテンツの著作権処理と作製者からの使用許諾の取得である。

【大阪大学】異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習、多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース、高齢者の総合診療に資する歯科医療人の育成実習

異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習では、3名の大学院生が、1回6時間の実習を、延べ22回履修した。また、指導的歯科医療人養成コースでは、6名の臨床研修医が1回6時間の実習を、延べ13回履修した。要介護高齢者歯科治療模擬体験実習は6名の臨床実習生が希望受講し、要介護者高齢者マネキンを用いて歯科治療（口腔内検査、印象採得）を模擬的に実践し、診療時の要点などの解説およびフィードバックを行った。

【岡山大学】「口腔・全身健康実践」コース—周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—、医療支援歯学教育コースワーク1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習、医療支援歯学教育コースワーク2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習、医療支援歯学教育コースワーク3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習

研修歯科医を対象として、「口腔・全身健康実践」コースを実施した。全研修歯科医の計53名が1週間の日程で大学病院内にて、周術期医療、周術期歯科管理について、研修を行った。

「シミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習」は、平成27年度はシミュレーション実習と老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習はとに分けて行い、シミュレーション実習については、臨床実習生を対象として実施し、治療環境をさまざまに設定し、状況に応じた歯科治療のシミュレーションを行った。また、老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習は、4年次学生を対象として実施し、介護施設を訪問し、学生自身に介護現場における課題を抽出させた。

「岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習」では、平成27年度は、臨床実習生（5年次後期～6年次前期）を対象として、55名が実習を行った。

「臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習」では、臨床実習生全員（54名）が1人あたり2件の歯科医院にて計2日間の実習を行い、臨床講師（教授）の訪問歯科診療に同行した。

【九州大学】口腔健康科学特論

5年次学生を対象とし、集中講義臨床実習開始直前に全8回の「口腔健康科学特論」を導入し、61名が受講した。次年度以降も開講することを決定した。

【長崎大学】離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習

平成27年8月～9月に、他大学選択履修者を対象としたサマースクールを実施し、連続5日間五島市にて滞在型実習を実施（2クール計8名）した。病棟に始まり、一般歯科まで重症度・介護度が軽くなるように実習施設を配し、さまざまな身体状況の方々の医療介護の現場で歯科医として求められるものはなにかを学生に考察させた。

平成27年10月から11クールに分けて、1組4～5名ずつ連続5日間五島市にて滞在型実習を長崎大学臨床実習生に対して実施し、51名が実習を行った。

【鹿児島大学】奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース

鹿児島大学歯学部生を対象に離島・地域歯科医療に関する90分 X 7回の講義を行った。一部の講義は、鹿児島大学医学部地域医療学分野にも協力をいただいた医科歯科教育連携の形式で行った。主な講義内容をビデオ録画し、e-learning教材として本事業の他の連携大学歯学部生にも受講可能とした。また、体験型実習として、平成27年8～9月に与論島での5日間の実習を3クール行った。鹿児島大学以外にも岡山大学から3名、九州大学から2名の歯学部生の参加があり、実習後のアンケートでも受講者から高い評価を得た。

【岩手医科大学】入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム

「被災地口腔ケア・食支援実習」について、平成26年度トライアル実習の評価を行った。平成27年度は、正規選択科目として、大学院の選択コースとして正規の課程に組み入れ、5月期1日と11月期の1泊2日の計3日で4名の大学院生が実習に参加した。

「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」を平成27年3月に計2日の日程にて実施予定である。

「栄養サポートチーム (NST) ・緩和ケア実習」では、緩和医療学科の木村祐輔教授による「緩和ケア」についての講義を行い、24名の大学院生が聴講した。

【日本大学】アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学

昨年度の実習後アンケートの結果をもとに、基礎実習の内容を変更した。新たに摂食嚥下障害を背景にもつ高齢者の口腔内を忠実に再現した口腔機能管理模型と、OSCE形式の実習試験を導入した。その結果、新しく導入した口腔機能管理模型については、すべての学生が実習に有効であったと回答し、実習での視覚教材として有意義であったと考えられた。

【昭和大学】チーム医療を目指した歯科医療人養成コース、健康長寿社会を実現する病院から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース

「チーム医療を目指した歯科医療人養成コース」について、本年度は、本学4年次学生に対して4学部連携チーム医療Ⅱ(学部連携チーム)学部連携PBL90分12コマを実施した。多くの学生が終了時のアンケートでチーム医療の重要性を認識していた。また、4学部連携チーム医療Ⅱ(学部連携チーム)では、模擬患

者のシナリオを通してチーム医療の中での歯科医師の役割が認識されて、他学部
の生徒との信頼関係の構築に重要な実習であった。次年度には実際に病棟実
習を行うため、歯科医師に必要な医科の知識の重要性が再認識されると思われ
た。

「健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科
医療人養成コース」では、臨床研修歯科医全体 76 名の中から昭和大学口腔ケ
アセンターをラウンドした者は 90%の 68 名である。研修終了後に実施したアンケ
ート調査から、「入院患者の口腔のケアの重要性を説明できる」という設問に対
し、コースを受講した研修医全員が「少しできる」または「十分にできる」と回
答した。また、「呼吸器を装着している患者の口腔のケア」、「重度口腔乾燥のあ
る入院患者に対する口腔のケア」という項目では「未経験」と回答した者も存在
しており、今後のプログラムの進行により、改善が期待される場所である。

【兵庫医科大学】「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE” を実践できる歯科医療人養成コース

__平成 28 年 4 月の研修歯科医師の受け入れを目標としており、本年度は事業開
始に伴う構成員への説明や、プログラム構築に必要な体制作り、CREATE の普及
を重点的に行った。また、兵庫医科大学に所属する卒後臨床研修医およびレジデ
ントに対する教育もおこなった。

4. 本事業に関連する論文・講演等実績

論文

- 1) 下田 篤史, 宗 淳一, 足羽 孝子, 村田 尚道, 福田 智美, 小林 求, 鳥越
英次郎, 牧 佑歩, 杉本 誠一郎, 山根 正修, 豊岡 伸一, 大藤 剛宏, 三好
新一郎: 口腔・嚥下機能の管理 周術期管理センター導入による組織横断的
な呼吸器外科周術期管理法 . 胸部外科, 69: 20-24, 2015.
- 2) 村田尚道, 前川享子, 孫田哲郎, 田尻絢子, 細坪充裕, 東倫子, 神田ゆう子,
小林幸生, 野島靖子, 森貴幸, 山田智枝, 宋本儒享, 徳善貴大, 皆木省吾,
江草正彦: 摂食嚥下リハビリテーションに関する研修会の意識調査. 岡山
歯学会雑誌, 34: 53-57, 2015.

総説論文

- 1) 村田尚道：嚥下時における咽頭部の超音波検査法の開発. *Bio Clinica*, 30(12):1225-1229, 2015.

学会発表

- 1) 杉本恭子, 宮脇卓也, 武田宏明, 前田茂, 曾我賢彦, 森田学, 鳥井康弘, 窪木拓男：岡山大学における臨床講師を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習について. 第34回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会. 鹿児島市. 2015. 7. 10-11
- 2) 園井教裕, 曾我賢彦, 室美里, 山中玲子, 吉富愛子, 武田宏明, 杉本恭子, 前田あずさ, 窪木拓男：大学病院を利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習による緩和ケア教育の効果と課題. 第34回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会. 鹿児島市. 2015. 7. 10-11
- 3) 武田宏明, 白井肇, 大塚恵理, 塩津範子, 鈴木康司, 河野隆幸, 杉本恭子, 吉田登志子, 村田尚道, 山中玲子, 曾我賢彦, 宮脇卓也, 窪木拓男, 鳥井康弘：岡山大学病院歯科医師臨床研修における多職種連携診療及び在宅歯科医療研修の現状. 第34回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会. 鹿児島市. 2015. 7. 10-11
- 4) Naoki KOBAYASHI, Yoshihiko SOGA, Kazu HATANAKA, Kyoko MAEKAWA, Yuko KANDA, Eiko KOBAYASHI, Yumi FUJIWARA, Toshimitsu TANAKA, Kaoru MORITA, Kazuhiko MORITA: Importance of dental intervention as risk management for severe dementia patients. The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2015, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22.
- 5) Reiko YAMANAKA, Mami INOUE-MINAKUCHI, Yoshihiko SOGA, Aya YOKOI, Masayo SHIMURA, Hirotaka KOSAKI, Misato MURO, Kumiko NAWACHI, Manabu MORITA, Takuo KUBOKI, Seiji IIDA: Patients who undergo esophageal surgery require more dental treatment than Patients who undergo Cranial nerve surgery, Respiratory surgery, Gynecological surgery, Breast thyroid surgery. The 63th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Fukuoka, Japan. 2015.10.30-31

- 6) Misato Muro, Yoshihiko Soga, Kota Kataoka, Daisuke Ekuni, Seiji Iida, Manabu Morita: Bacterial substitution on the oral mucosa before and after hematopoietic cell transplantation: gene-level analysis by PCR-denaturing gradient gel electrophoresis. The 20th Annual Congress of Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group in Okinawa, Nago, Okinawa, Japan. 2015.10.30-11.1.
- 7) 室美里, 曾我賢彦, 片岡広太, 江國大輔, 飯田征二, 森田学: 造血幹細胞移植後におこる口腔粘膜上細菌叢の変化 —PCR-DGGE 法を用いた解析—. 第 38 回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016.3.5
- 8) 志茂加代子, 工藤値英子, 曾我賢彦, 佐伯恭昌, 橋本倫子, 高橋郁名代, 前田嘉信, 三浦留美, 岩月啓氏, 谷本光音, 高柴正悟: 造血幹細胞移植期間中に下唇に発症した深在性真菌症に対する多職種連携による対応と経過 ~歯科衛生士の立場から~. 第 38 回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016.3.5
- 9) 松田友里, 川村夢乃, 安岡利香, 武田悠理子, 三島美鈴, 片山朋子, 小野佳子, 高橋郁名代, 曾我賢彦, 近藤英生, 藤井伸治, 前田嘉信: 造血細胞移植患者の咽頭痛の発生状況および粘膜障害との関連について. 第 38 回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016.3.5
- 10) 村田 尚道, 前川 享子, 東 倫子, 江草 正彦: ALS評価尺度と摂食嚥下障害の関連性. 第 3 回日本難病医療ネットワーク学会. 仙台市. 2015.11.13-14.
- 11) 村田 尚道, 綾野 理加, 前川 享子, 東 倫子, 田尻 絢子, 細坪 充裕, 角谷 真一, 森 貴幸, 江草 正彦: グルコーストランスポーター1欠損症候群に伴う摂食嚥下障害の一症例. 第 32 回日本障害者歯科学会. 京都市. 2015.11.6-8
- 12) 村田尚道, 有岡享子, 神田ゆう子, 小林幸生, 森貴幸, 細坪充裕, 孫田哲郎, 江草正彦: 摂食嚥下リハビリテーションに関する研修会の意識調査. 第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会. 名古屋市. 2015.9.11-12
- 13) 村田尚道, 前川享子, 小林幸生, 角谷真一, 松永匡司, 相坂有一郎, 松尾慶子, 森 貴幸, 皆木省吾, 江草正彦: 病院および高齢者施設職員を対象とした摂食嚥下リハビリテーション研修会に関するアンケート調査. 第 26 回日本老年歯科医学会. 横浜市. 2015.6.12-14.

講演

- 1) 窪木拓男：超高齢社会に歯学教育を如何に適応させるか. 第 69 回日本口腔科学会学術集会 ワークショップ 4 「医学部口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実」, 大阪, 2015. 5. 14.
- 2) 窪木拓男：高齢者のインプラント治療. 第 69 回口腔科学会 シンポジウム 2 「インプラント治療の今後の展望」. 大阪, 2015. 5. 14.
- 3) 窪木拓男：超高齢社会における口腔インプラント学会専門医の責務とは一最後まで患者に寄り添うために一. 第 4 5 回日本口腔インプラント学会学術大会専門医認定研修セミナー, 岡山, 2015. 9. 21.
- 4) 窪木拓男：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革のねらいと実施状況. 平成 27 年度連携シンポジウム (昭和大学開催) ミニシンポジウム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革の推進-事業の進行状況と今後の展望-」, 東京都, 2015. 10. 22.
- 5) 窪木拓男：高齢者の食を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防. 九州大学大学院特別講義, 博多, 2015. 11. 05.
- 6) 窪木拓男：超高齢社会に対応する歯学教育を如何に構築するか. 第 1 回 鹿児島国際歯学シンポジウム 特別講演. 鹿児島, 2016. 1. 30.
- 7) 窪木拓男：超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方-最期まで患者に寄り添うために-. 静岡県口腔インプラント研究会 第 34 回臨床講演会, 静岡, 2016. 3. 19.
- 8) 曾我賢彦：がん患者に歯科の専門性はどのように役立つか?—がん支持療法としての口腔内管理の意義と実際—. 信州大学がん患者等歯科医療連携講習会, 長野県松本市, 2015. 4. 5
- 9) Yoshihiko SOGA: Advancing hospital medicine with dentistry: activities of dental staff, including dental hygienists, at Okayama University Hospital, International Conference: Outcomes Research and Translational Medicine in Oral Health Care, Taipei Medical University, Taipei, Taiwan, 2015. 5. 17
- 10) Yoshihiko SOGA: Antimicrobial Resistance, MASCC/ISOO Continuing Education (CE) Course, MASCC/ISOO 2016 Annual Meeting, Copenhagen, Denmark, 2015. 6. 27

- 1 1) 曾我賢彦：歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際－総論－，医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）第2回 歯学生・歯科医療関係者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際，岡山市，2015. 8. 22
- 1 2) 曾我賢彦：病院医療における口腔感染管理の意義と実際，第85回日本感染症学会西日本地方会学術集会／第58回日本感染症学会中日本地方会学術集会／第63回日本化学療法学会西日本支部総会，奈良市，2015. 10. 17
- 1 3) 曾我賢彦：「MASCC/ISOO がん治療に伴う粘膜障害に対するエビデンスに基づいた臨床診療ガイドライン」について．第9回日本口腔ケア協会学術大会，松本市，2015. 11. 15
- 1 4) 曾我賢彦：歯科衛生士が広げる医療の幅－歯周病を切り口として－，兵庫歯科衛生士会 姫路・神崎支部，播磨支部，丹波篠山支部4支部合同研修会，姫路市，2015. 12. 5.
- 1 5) 曾我賢彦：変わりつつある歯科医療－口の健康から全身の健康、そしてトータルヘルスケアへ－，岡山県保険医協会第20回医療と介護を考える県民フォーラム，岡山市，2015. 12. 22
- 1 6) 曾我賢彦：緩和ケアにおける口腔ケアの意義と実際，岡山大学病院第79回緩和ケア勉強会，岡山市，2016. 1. 14
- 1 7) 曾我賢彦：病院医療における口腔内管理の意義と実際－がん支持療法の一環として－，広島市民病院医局講演会，広島市，2016. 1. 15
- 1 8) 曾我賢彦：病院医療における口腔内管理の意義と実際－がん支持療法の一環として－．口腔ケア医科歯科連携 Conference 藤田保健衛生大学，愛知県豊明市，2016. 1. 21
- 1 9) 曾我賢彦：造血幹細胞移植におけるチーム医療 口腔ケア：歯科医の立場から，第38回日本造血細胞移植学会総会，名古屋市，2016. 3. 5
- 2 0) 曾我賢彦：がん治療に伴う粘膜障害対策の国際的な潮流－MASCC/ISOO 粘膜障害対策ガイドライン 2013年改訂版．第1回日本がん口腔支持療法学会学術大会，名古屋市，2016. 3. 6
- 2 1) 曾我賢彦：歯科における地域包括ケア教育の現状と改善への提案．医療・介護従事者を対象とした長崎大学公開講座「多職種協働で守る口と体の健康」．長崎市，2016. 3. 19
- 2 2) 村田尚道：高齢者の摂食嚥下障害への対応について．摂食嚥下リハビリ

研修会，高梁市，2016. 3. 8

- 2 3) 村田尚道：一生いい歯と付き合うために～障害児・者の歯科治療の現状と口腔ケア～. 健康の森支援学校研修会，新見市， 2015. 8. 7
- 2 4) 村田尚道：食べる機能の発達と障害への対応、食支援としての課題. NPO 健康法人歯るる講演会，徳島市，2015. 7. 1
- 2 5) 村田尚道：摂食における支援、留意点について. 岡山県立早島支援学校研修会.，早島町， 2015. 5. 13
- 2 6) 村田尚道：給食の場面における安全な摂食の指導について. 岡山県立岡山東支援学校職員研修，岡山市，2015. 6. 24
- 2 7) 村田尚道：摂食に関わる口腔機能の獲得・発達について. 兵庫県歯科衛生士会総会后研修会，神戸市，2015. 6. 14
- 2 8) 村田尚道：摂食嚥下障害と評価. 岡山大学公開講座 第11回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会初級コース，岡山市， 2015. 4. 22
- 2 9) 村田尚道：摂食機能訓練その1、2. 岡山大学公開講座 第11回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会上級コース，岡山市，2015. 10. 29, 11. 26
- 3 0) 村田尚道：誰でもやらなければいけない口腔ケアのコツ. 第11回岡山PEG・栄養研究会，岡山市，2015. 4. 25
- 3 1) 村田尚道：摂食嚥下障害と口腔管理. 岡山大学公開講座 岡山大学摂食嚥下障害研究会～食支援ネットワーク～，岡山市，2015. 5. 14
- 3 2) 村田尚道：摂食嚥下の科学 誤嚥性肺炎の予防. 岡山スーパー大学院高齢者の心と身体のおくみ、疾患、予防の科学ゼミ，岡山市， 2015. 8. 9
- 3 3) 村田尚道：摂食嚥下機能の基本. ベッドサイドの摂食嚥下スクリーニング検査とVE研修会，岡山市，2015. 10. 12, 2016. 1. 31
- 3 4) 村田尚道：在宅での摂食機能評価. 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療） みんなで取り組む在宅医療，岡山市，2015. 12. 19
- 3 5) 園井教裕：口腔の健康と肺疾患-肺炎，COPD. 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔） みんなで取り組む生活習慣病，岡山市，2016. 1. 7

報告書

- 1) 平成 27 年度在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムー在宅訪問歯科診療教育

- の実践－. 2015. 9. 24. 岡山大学歯学部
- 2) 平成 27 年度在宅・訪問歯科診療教育シンポジウム－岡山大学歯学部における在宅・歯科訪問診療教育－. 2016. 3. 13. 岡山大学歯学部

企画講演会

- 1) 医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）第 1 回 歯学生・歯科医療者が知っておくべき災害時医療の実際, 2015. 8. 8. 岡山大学歯学部
- 2) 医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）第 2 回 歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際, 2015. 8. 29, 30. 岡山大学歯学部
- 3) 医療支援歯学教育コースワーク第 3 回 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ 1 (生活習慣病と口腔) みんなで取り組む生活習慣病, 2015. 12. 3, 10, 16, 2016. 1. 7, 9. 岡山大学歯学部
- 4) 医療支援歯学教育コースワーク第 4 回 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ 3 (在宅介護医療) みんなで取り組む在宅医療, 2015. 12. 18, 19, 25, 2016. 1. 14. 岡山大学歯学部

定例シンポジウム

- 1) 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）選定事業 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－平成 27 年度 連携シンポジウム, 2015. 10. 22, 23. 昭和大学上條講堂

授業シリーズ, シンポジウム等

【岡山大学】

- 1) 医療支援歯学教育コースワーク 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ 1 (生活習慣病と口腔)
- 2) 医療支援歯学教育コースワーク 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ 2 (急性期医療)
- 3) 医療支援歯学教育コースワーク 死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ 3 (在宅介護医療)

【長崎大学】

- 4) 長崎大学離島歯科保健医療サマースクール
- 5) 高齢者歯科講演会「これからの高齢者歯科学と医療を考える」

【鹿児島大学】

- 6) 夏季全国歯学生離島実習プログラム
- 7) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催

IV. 平成27年度の自己評価Ⅲの平成27年度の達成目標とそれに対する実績・具体的な成果から、以下の自己評価に至った。

自己評価委員会における本事業評価

評価項目	5段階評価										
	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	5	良い
事業計画の妥当性	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	⑤	良い
計画に沿った成果を得られているか	悪い	1	・	2	・	3	・	④	・	5	良い
本プロジェクトに関連した業績は十分か	悪い	1	・	2	・	3	・	④	・	5	良い
事業費の使途に問題はないか	悪い	1	・	2	・	3	・	4	・	⑤	良い

総評

本事業は開始から2年目となり、今年度は、来年度から開始する医療支援歯学教育コースワーク（電子授業シリーズ）の閲覧のための体制整備を勢力的に進めるとともに、連携大学間の相互交流をより強化することで、各大学の特徴あるプログラムの共有を進めることができた。また、岡山大学の関連実習、関連演習のトライアルは完了し、来年度から本格実施に向けて準備は万端である。特に、本事業を通して培われたがん口腔支持療法という新しい臨床研究領域が発展し、岡山大学病院の医療支援歯科治療部曾我准教授のグループが全国の連携大学とともに「[日本がん口腔支持療法学会](http://jaoscc.umin.jp/index.html)」を創設したことは、本事業の成果を広く発信し、ひいては国民に貢献するという面で特筆に値する。また、地域医療を推進している有能な歯科医師を岡山大学の臨床講師に任用した在宅・訪問診療の実習も、2度のFDとトライアルを経て、そのブラッシュアップが進み、優れた実習として本格実施を迎えている。それら成果広報するべく、ホームページのブラッシュアップを行い、広報発信力を強化した。一方で、現在の電子授業コンテンツの多くが著名な臨床家や研究者の特別講演の羅列になっている部分があるため、総論が重なっている。授業の内容を、より臨床に促したわかりやすい順番を模索したり、学生の学習効率という面からブラッシュアップする必要がある。来年度以降も各連携大学や協力施設の相互協力をより一層推進する予定である。

以上を総括すると、本事業の進捗状況は事業計画に沿って良好に進捗しているといえる。